

『こじやんと』で じやんとシカを獲りゆげよ！

四国森林管理局 森林技術・支援センター

はじめに

四国森林管理局森林技術・支援センターでは、深刻化するニホンジカによる植栽木の被害等の被害に対応するため、平成22年度から、ニホンジカの捕獲効率の向上及び農林業者が活用しやすい安価で軽量なわなの普及を目的として、囲いわなの開発や、囲いわなを用いた効率的な捕獲試験を実施してきました。

安価で軽量な 囲いわなの開発

ニホンジカを捕獲する方法は、一般的に銃器とわなによる方法があります。当センターでは、国有林の職員や一般の方が容易に捕獲に取り組めるよう特別な技術・経験が不要な「囲いわな」を開発することとしました。

開発に当たっては、低コストであるこ

と、軽量であること及び容易に組立て・解体ができることの三点を目標に、「こじやんと1号」・「こじやんと2号」を開発しました(写真1、2)。

小型囲いわな「こじやんと1号」の特徴は、

- ① 低コスト…約5万円で市販の箱わな(約10万円)の半分以上
 - ② 小型軽量…約60kg、組立後、軽トラに積載可能
 - ③ 組立・解体が容易…2人で5分程度
 - ④ 錯誤捕獲を防止…天上部が解放されているため、万が一クマが捕獲されても脱出可能
- であることです。
- なお、「こじやんと2号」は、1号より一回り大きく、大型のシカ捕獲用となっています(約6万円、約102kg、10分程度)。

これまでの実績・普及活動

小型囲いわな「こじやんと1号・2号」の「こじやんと」とは、土佐弁で「すこく

管内概要

四国森林管理局は、四国4県に所在する国有林約18万haを所管しています。管内の国有林は四国の脊梁山地に多く分布しており、森林帯区分でみると、暖温帯林から亜寒帯林にまでわたり、標高に従い、低地から順にシイ・カシ林、モミ・ツガ林、ブナ林、シラベ林などの多様な森林で構成されています。



また、森林技術・支援センターでは、公益的機能の高度発揮等に対する国民の要請に対応しつつ、民有林経営への普及を念頭にした林業の低コスト化等に向けた技術開発を推進し、その成果を国有林の管理経営や民有林における普及・定着に資するよう取り組んでいます。

局の基礎データ

所在地	高知県高知市丸ノ内1丁目3番30号
区域面積	188万ha
うち森林面積	139.9万ha(森林率74%)
国有林面積	18.3万ha(国有林率13%)
所管区	4県(徳島県、香川県、愛媛県、高知県)

たくさん」の意味で、これまで以上にシカがすこく捕れるよう、期待を込めて命名しました。

「こじやんと1号・2号」は、平成31年

3月現在までに、合計243基が四国4県はもとより、東北・関東地方にも導入され、四国森林管理局管内の国有林では、「こじやんと1号・2号」を用いて延

べ約900頭のシカが捕獲されています。本年度も民有林や他の森林管理局へ導入される予定です(写真3)。

このような実績を踏まえ、当センターでは、さらなる普及・技術支援に努めています。

平成30年度の「森林・林業・環境機械展示実演会」東京において、「こじゃんと1号」の実物展示を行い、全国の森林・林業関係者等にPRしたところ、民間の方からの問い合わせが多く、実際に導入された方もいました(写真4)。

さらに、誰でも「こじゃんと1号」を容易に設置できるように設置方法をわかりやすく解説したDVDを作成するとともに、局HP及びYouTubeにも動画を掲載しています(※)。

また、管内では、一部の市町村を除き、広範囲にニホンジカが生息し、民有林でも被害が発生していることから、各森林管理署等と猟友会・市町村の三者が連



写真1 こじゃんと1号(左)、2号(右)



写真2 こじゃんと1号(軽四搭載時)



写真3 こじゃんと1号による捕獲



写真4 森林・林業・環境機械化展示実演会in東京への実物展示



図1 簡易無線通信を活用したシカわな遠隔捕獲通知システムの開発・実証

ICTを活用したシカ被害対策

(※)ニホンジカ捕獲用囲い「こじゃんと1号」設置解説動画
(<https://www.youtube.com/watch?v=tG30TFV3P-Y>)



四国局では、「こじゃんと1号」等のわなの普及活動と併せて、ICTを活用した捕獲通知システムの開発・実証にも取り組んでいます。
管内の国有林の多くは四国の脊梁山

地に所在しており、わな設置後の巡視に、多くの労力を要しています。また、通常の通知システムでは携帯電話の電波が届かず利用できない箇所が多い状況となっています。

このことから、高知県や市町村、猟友会などと連携し、

- ①携帯電話網が利用できない山間部に設置したわなに発信機を設置し、中継機を搭載したドローンを飛ばして電波を中継し、多数のわなの捕獲データを狩猟者の受信機(タブレット)に一括表示させるシステムの開発・検証
- ②簡易無線通信を活用し、子機が山間部に設置した多数のわなの捕獲動作を感知し、中継機や親機を経由して狩猟者の携帯電話に通知するシステムの開発・実証(図1)を行っています。

さらなる普及・開発に向けて

「こじゃんと1号・2号」については、設置の容易さなどから導入が進んでいますが、より使い勝手の良いものとなるよう、現在も、改良・見直しに取り組んでいるところです。

ニホンジカの被害対策は、民有林・国有林を問わず地域の森林・林業に共通する大変重要な課題であることから、これまでの取組を加速するとともに、今後地域のニーズを踏まえた開発・実証などを通じて地域の森林・林業の振興と地域全体の活性化に積極的に貢献していきたいと考えています。